

特集 **自然エネルギー**

- 5面 **今を生きるあなたへ**
闇夜の中でも自らの光の道を (金 香百合)
- 6面 **「ひろしまを考える旅2012」お知らせ**

昨年3月11日の東日本大震災に引き続き発生した東京電力福島第一原発事故は、日本社会を足下から大きく揺さぶっている。それまではただコードを差し込むだけだったコンセントの先を想像し、本当に安心して安全なエネルギーを使いたいと多くの人が声をあげている。

「FUKUSHIMA」は諸外国のエネルギー政策へも影響を及ぼした。2010年に原発の運転延長を決定していたドイツは、その方針を凍結し、2022年までの原発全廃を決

1
「3・11」が変える
エネルギー社会

昨年3月11日の東日本大震災に引き続き発生した東京電力福島第一原発事故は、日本社会を足下から大きく揺さぶっている。それまではただコードを差し込むだけだったコンセントの先を想像し、本当に安心して安全なエネルギーを使いたいと多くの人が声をあげている。

「FUKUSHIMA」は諸外国のエネルギー政策へも影響を及ぼした。2010年に原発の運転延長を決定していたドイツは、その方針を凍結し、2022年までの原発全廃を決

定した。スイスは2034年までの原発廃止を決め、イタリアでは国民投票で原発が選択された。

日本政府は「エネルギー基本計画」を今年7月までに見直す予定だ。そのために経済産業省の下に設けられた総合資源エネルギー調査会基本問題委員会では、25人の委員が2011年10月から議論を重ねている。会議はインターネットで公開されており、6月下旬からは「国民的議論」が行われる予定だ。

2
エネルギー利用の
転換期へ

生活に不可欠なエネルギーだが、際限なく資源の生産・利用を押し進める時代は終わった。消費を抑制しつつ賢い省エネを進め、必要分は太陽・風力・バイオマス・地熱・水力といった自然エネルギーで賄うことが基本的な目指される。

日本はこれまで原子力を偏重し、エネルギー政策の中に自然エネルギーをほとんど位置付けてこなかった。

世界に目を向けると、自然エネルギーはこの10年ほどで爆発的に普及拡大している。2009年に

など、さまざまな議論や実践の間も立ち上がっている。私たちは幅広い議論を経て、長期的な視点に立ったエネルギー社会を選択していく必要がある。

た。2004年に電力会社に一定割合で自然エネルギー由来の電気の買い取りを義務付けたRPS（新エネルギー特別措置法）が導入されたが、2010年に1・35%という低過ぎる導入目標値などにより、普及拡大どころか逆に自然エネルギーを押し

The Young Women's Christian Association

YWCA

6

JUNE 2012 No.708

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題
平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
 - ・平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
 - ・女性と子どもの権利をまもり
 - ・パレスチナYWCAの活動を支援する
 - (2) 若い女性のリーダーシップを養成する

www.ywca.or.jp

特集 **自然エネルギー**



氏家 芙由子

認定NPO法人
環境エネルギー政策研究所
リサーチアシスタント

自然エネルギーが創る、 未来のエネルギー社会へ

5月5日に北海道電力泊原発3号機が定期点検のため停止し、日本は42年ぶりに原発稼働ゼロとなりました。東京電力福島原発の事故後、それでも「原発がなければ日本のエネルギー政策は立ちゆかない」と再稼働を求める声もあります。今回は、自然エネルギーへの転換について考えます。(編集委員会)

は世界のエネルギー消費量の16%を、2011年には世界の電力供給の20%を自然エネルギーが供給した¹。ドイツでは最終エネルギー消費量の12・2%、電力消費量の20%を自然エネルギーが供給している²。スペインでは風力発電が電力供給の最大40%を占めることもあり、マドリッドにある中央給電司令所が変動する出力をうまくコントロールしている。アジアやアフリカ、南米等での成長も著しい。自然エネルギーは21世紀の産業の主役に躍り出し、多くの雇用も創出している。

世界の状況に対し、日本国内の取り組みは立ち遅れている。2009年の発電量全体に占める自然エネルギーの割合は、大型水力を除けばわずか3・5%で、2000年からの伸びは約1%にとどまる³。2004年までは世界一の発電容量を誇っていた太陽光発電は、ドイツやスペインにその座を明け渡している⁴。

3 賢い政策の導入による変革の実現

自然エネルギーを軸に据えた賢い政策が、このような状況を変革していく鍵となる。さまざまなデータ⁵が示すように、日本の各地域には豊かな自然エネルギー資源が存在する。折しも、再生可能エネルギー特別措置法が今年7月から施行される。自

然エネルギーで発電した電力を電力会社に一定期間一定価格で買い取ることを義務付ける固定価格買取制度は、既に導入されているドイツやスペインなどで、自然エネルギーの爆発的な拡大につながった。制度の施行を前に、国内では自然エネルギーの事業計画が次々に立ち上がり、特に太陽光発電については住宅メーカーなど異業種の参入の動きも見られる。自然エネルギー市場を創る道筋は開けた。政府は明確な導入目標値を定め、関連法の整備や、自然公園法など自然エネルギー開発の障害となつている法規制の見直し等に早急に着手しなければならない。発送電分離を含めた電力市場の改革も視野に入れていく必要がある。

4 自然エネルギー推進の主役は地域

自然エネルギー事業に取り組み主体は事業者だけではない。ドイツやデンマークなどでは、多くの農民や個人、地域の人々がつくる協同組合などが資金を出し合い風車や太陽光パネルなどの導入を進めている。地域の人たちが出資し、意思決定に参加し、売電した利益を得るような自然エネルギー事業は、「コミュニティ・パワー」などと呼ばれる。日本でも全国12基の「市民風車」や長野県飯田市の「市民発電所」などの先駆

的取り組みがあるが、3・11後、さらに各地で地域主導のイニシアチブが生まれている。環境エネルギー政策研究所は、2012年3月8日に「コミュニティ・パワー会議」を開催し、自分たちの地域で自然エネルギー事業に取り組みむ国内外の人たちとその取り組みを共有した⁶。

自然エネルギー利用は、社会を転換していく大きな契機となり得る。地域の資源が見直され、経済・社会の活性化等の波及効果もたらされる。供給側・需要側共に多様な選択肢が生まれ、エネルギーサービスの質も向上するだろう。そして、多様な市民が参加する足下からの議論や取り組みは、持続可能なエネルギー社会への転換を確かなものにしていくだろう。

DATA

- 1 自然エネルギー世界白書2011
- 2 http://www.erneuerbare-energien.de/files/english/pdf/application/pdf/ee_in_zahlen_tischvorlage_en.pdf
- 3 自然エネルギー白書2011
- 4 自然エネルギー世界白書2011
- 5 「永続地帯」千葉大学倉阪研究室、認定NPO法人環境エネルギー政策研究所
<http://sustainable-zone.org/>
環境省平成22年度再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査
<http://www.env.go.jp/earth/report/h23-03/>
- 6 詳細は以下 <http://www.iseip.or.jp/news/2328>

子どもたちに平和な未来を！

葉袋洋子 みない

甲府YWCAは今夏「原爆絵画展」第30回を迎えます。一昨年の原爆絵画展で、広島市民が描いた絵に、ある女の子が「どうしてこんなに悲しい絵ばかりあるの？」と涙を浮かべて同行のお年寄りに尋ねていました。

「子どもたちに平和な未来を！」がここ3年間の「原爆絵画展」のテーマでした。前述の女の子の泣き出さなばかりの顔が今でも目に焼き付いています。私たちは日本YWCAビジョンのもと、子どもたちが平和で安心して成長できる環境を整えようと、核のない世界を目指してこの活動を続けてきました。

昨年の東京電力福島第一原発事故以来、日本のみならず世界は変わりました。日々放射線量を気にする中、子どもたちは成長に欠かせない戸外での自由な遊びが許されず、将来への健康不安を背負う毎日となりました。

正常稼働でも原発は、使用済み核燃料「核のゴミ」の処理には非常に長い時間と多額の経費が必要とのこと。私たちのこれまでの生活の後始末を子どもたちやその子孫に担わせることとなります。セシウム137は半減期が30年、プルトニウム239に至っては半減期が2万4000年とのことです。そしてこの処理の方法は未だに確立されていないと聞いています。その様な中で原発事故が起これば、さらに停止中の原発の再稼働も政治的判断で推進されようとしています。唯一の被爆国である日本は強く「核」を否定し、原発を持つべきではなかったのです。

私たちは日本と世界の「自然環境」と「普通に過ごせる平和な生活」を未来に残す責任があります。「核」否定の思想に立つ日本YWCAの一員として、子どもたちの人権と未来を守るため、今年も「原爆絵画展」の準備を進めていきます。

(甲府YWCA会員)

「風」「水」「光」「森」

自然を活かす 雲の上の町

ゆすはらを訪ねて



場の職員、環境推進課の坂本重文さんにお話を伺った。「決して私たちは脱原発を掲げてきたわけではないのですが…」と始められた内容を伝えたい。

「風がささやき、森が踊り、神々が舞い降りる。そこは雲の上の楽園、**梶原**」(梶原町のパンフレットより)。東日本大震災後3カ月、手にした新聞で知った高知県梶原町。以来この町のことを頭を離れず、いつか訪れたいと思い続け、今年3月初め、ついに念願を果たすことができた。町面積の91%を森林が占め、日本3大カルストのひとつ四国カルストに抱かれた自然豊かな山間の、人口4000人あまりの小さな町に初めて立った。電柱がない。電線がない。深い緑を背景に白・黒・茶色を基調にした町のたえずまい。そこにはやさしく落ち着いた、しかも文化の香り漂う空気がそこはかとなく流れていた。役

標高1300mの風車

梶原町のデンマーク製の風車は、風速3mから発電をはじめ、最大で1時間に600KWの電気をつくることのできる。風車の内部にはコンピュータが設置されており、風車が一番よい状況で風を受けることが出来るよう風車の向きや、羽根の角度を自動で管理している。



川と谷から小水力発電

梶原川・四万川など町内の多くの川の流れの勢いや高低差など、山間にある川の特徴を生かした小水力発電に取り組み、昼は中学校の施設に供給し、夜間は町中の街路灯(82基)に電気を供給している。

梶原ペレット

地域で生じる製材端材や林地での間伐時に生じる未利用資源を原料にして、固形燃料である木質ペレットを製造。バイオ燃料に活用することで、安定した燃料供給が可能となり、熱量を一定に保つことが出来る。現在年間1200トンのペレットを生産し、温泉施設や老人ホームの冷暖房に活用している。

太陽光発電

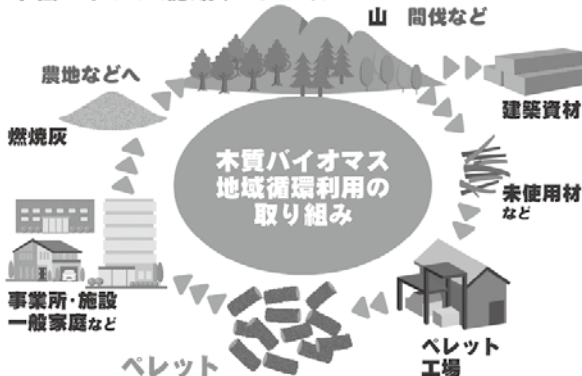
役場や学校など町立施設のすべてに太陽光発電をつける。特に5年前に完成した新庁舎は、太陽光発電システムを国内最高クラスの発電量である毎時80kwもの規模で採用し、また積雪を考慮して屋根一体型システムを取り入れ意匠的にもすっきりしたものになっている。

地中熱

地中熱を活用し25メートルの温水プールを運営している。

このような多彩な政策をトップダウンではなく、町民を前面に立ててやってき

木質バイオマス循環プロジェクト



梶原町ホームページより

た。その先頭に立ってきたのは中越武義前町長である。バブル期に建てられた町営リゾート施設の維持管理費が問題となった際、その地名が風早だったことから風力を借りて経費の節減が出来ないか考えた。梶原町の税収は3億円、2億2000万円円の風車の設置に関して町民の意思を問うた結果、95%が賛成であった。町民の広い議論の末1999(平成11)年11月11日の11時11分を期して発電を開始した。風力発電で生まれる4000万円の収益を、環境資金として積み立て、他の自然エネルギー採用の財源にする循環をつくった。「環境・健康・教育」を新しい町づくりの方向性とし、公募した町民15人をドイツやスイスに派遣し詳しい報告と町への提案を求めた。町をどうするかは町民自身が

考えるべきだから。「造ること」より「將來に生かす」ことを考えることこそ行政の使命とし、当時荒れ果てたままの森林を蘇らせるべきと考え「森との共生」に取り組む。5ヘクタール以上の間伐や手入れをすれば、1ヘクタール当たり10万円の交付金を出した。森は蘇り、雇用が生まれた。特に脱原発を掲げているわけではないが、隣町で放射性廃棄物の最終処分場を誘致する動きが出たときは、他の自治体に先駆け反対を表明した。現在財政は県内トップの健全性と安定性を誇り、山奥の小さな町に7人も医者がいる。

梶原町には町の構想を任せて文句を言うのではなく、住民が引き受けて考える真の民主主義が生きている。現在多くの自治体から視察にくるそうだが、職員に任せるだけでなく町民・市民ともに学ぶことが大切ではないかと思う。

このたび梶原町を訪ね、一人の女性物理学者のことが思い出された。女性として初めて物理学会会長を務めた、慶應義塾大学名誉教授・米沢富美子さんの科学者としての苦悩に満ちた文が手元にある。「原子炉の温度を必死で下げるために大量に水を使用しました。その水がどこへ行っているのか。海へ流れて、地下水に流れて、空気にも汚染が広がっています。いい方向に行かないし、止めようにもない。まじめに考えると科学者として頭がおかしくなりそうです。非常に不幸なきっかけですが、原発の危険性を国民が認識し、自然

エネルギーへの関心が高まっています。この流れを止めてはなりません。日本はクリーンな自然エネルギーに転換する上での技術もあり、担い手も十分います。10年後か、20年後クリーンエネルギー大国になれるかもしれない。それだけのポテンシャルは確実にあるのです。放射能や戦争などの不条理なものに脅かされること無く、人間本来の姿で生きていける。そんな社会を目指しましょう」。米沢さんの言葉が真実となって胸に迫ってきた。

一段と緑の美しさを増した5月初め、私は日本YWCAも加盟している国際婦人年連絡会の平和委員会のメンバーとともに、再び梶原町を訪問した。

編集委員長 実生律子



「木」の庁舎としては日本で最大規模である新庁舎は、太陽光発電システムを採用

種

何を食ひ、何を飲まんと命のことを思ひ煩ひ、何を着んと体のことを思ひ煩ふな。生命は糧にまさり、体は衣に勝るならずや。空の鳥を見よ、

播かず、刈らず、蔵に収めず。

然るに、汝らの天の父は、これを養ひたまふ。汝らは之よりも遙かに優る者ならずや。

汝らの中、たれか思ひ煩ひて、身の丈一尺を加へ得んや。

また、何ゆゑ衣のことを思ひ煩ふや。

野の百合は如何して育つかを思へ、

勞せず紡がざるなり。

然れど、われなんぢらに告ぐ、

栄華を極めたるソロモンだに、その服装この花の一つにも及がざりき。

今日ありて明日、炬に投げ入れらるる野の草をも、

神はかく装ひ給へば、まして汝をや、

ああ信仰うすき者よ。

さらば、何を食ひ、何を飲み、何を着んとて思ひ煩ふな。

是みな異邦人の切に求むる所なり。

汝らの天の父は凡てこれらの物の汝らに必要なるを知り給ふなり。

まづ、神の国と神の義とを求めよ、

然らば、凡てこれらの物は汝らに加へらるべし。

この故に明日のことを思ひ煩ふな、

明日は明日みづから思ひ煩はん。

一日の苦勞は一日にて足れり。

(マタイ伝 第6章25〜34節)

イエスは詩人ではないかとあるキリスト者詩人が書いておられるのに誘発されて、文語訳聖書を詩型に組み立ててみました。声を出して読んでください。不思議に力が湧いてきませんか。

杉村みどり 日本YWCA運営委員

今を生きるあなたへ 闇夜の中でも 自らの光の道を

HEALホリスティック教育実践研究所 所長
大阪YWCA 会員
金香百合

プロローグ

どんな時代でも、生きるということとは難しいことです。わかっているつもりでも、それでもなお、今の時代を生きることの困難さを思う日々です。震災後の日本。その日本を覆う政治や経済、また社会全般の動きの中に、心を明るくするようなニュースに出会うことがめつたにありません。しかもそのニュースが次から次へと消費されていきます。悲しく恐ろしいニュースさえ、記号のように一瞬にして忘れ去っていくような現代社会です。

阪神淡路大震災当時、神戸大学精神神経科教授だった中井久夫さんは、著書でこう書いておられます。「1995年1月・神戸」に続く第二冊目の報告書『昨日のごとく』（1996年4月刊）はほ

とんどといってよいくらいさばけなかった。関心の持続期間は一年ぐらいいであることが示唆される」。今回の大震災でも、被災地以外での関心は急激に薄れていると感じるのは私だけでしょうか。覆いかぶさるように、時代のキーワードは、無縁社会・孤族の時代・貧困の連鎖・生きづらさの社会・災害群発前夜の日本と厳しいものが並びます。

生きるための三つの力

このような時代を生きるために三つの力が必要だと私は考えています。それは①人間力②社会力③対話力です。①人間力とは、自分を理解し、他者を理解する。とりわけ、自分自身を、強さも弱さも含めてあるがままに受け入れること。そして、心身が元気でない時も、それなりにバランスを取りながら生きていく力です。②社会力は、この時代と社会の動きを理解して、その影響のもとで賢く生き抜いていくこと。同時にこの社会を良いものとしていくための働きかけを自分なりにしていく力です。③対話力は、人とのつながりやかかわりの中で、心を開いて話したり、聴いたりすること。そのことを通じて、学んだり、内省したり、癒されたりする力です。これらの力は、試練の多い状況では、一段と必要になります。でもこんな時ほど、人はからだもこころもバランスをくずしやすく、対人関係もバラバラになり、対話もなくなる中で、社会状況を読み取る力も低下しがちです。

■人間力

なによりもまず、自分という人間を好きになることから始めよう！というのが私の提案です。自己肯定感を高めること。そして次には他者とのつながりや関わりの中で、育ち合っていくことが大切です。足元でうまくいっていないかもしれない、親子関係や夫婦関係、友人関係などを再構築していくことも今は大切な時かもしれません。

■社会力

地球全体を巻き込んだ「経済至上主義」の大きな渦の中で私たちは生きています。この渦に巻き込まれず、さりとて、ストレスになるほど真向対決するのでもなく、自分に合ったバランスで距離をとりつつ行動していくことが大切です。経済至上主義が「早く、きちんと、たくさん、(皆と)同じように、失敗するな」と四六時中、私たちを追い立てる中で、そのことから距離をとるといふことを心がけてみるのです。子育ての基本方針はお金をかけずに、手間暇かける、愛情をかけることです。「エコな子育て」は、ゲームやケータイを与えるよりも、直接的な体験と対話を心がけることです。

■対話力

子どもを対話の中で育てることは大事なことです。同時にすべてのおとなたちも対話が必要としています。自分のすぐそばにいる家族・友人・知人・すれ違う人。それなりの対話を心がけることです。「思いを

言葉にする、言葉を行動にする、行動を習慣にする」ということです。まずは言葉にしてみましよう。話せる相手がいると喜びは二倍に、悲しみは半分になります。対話は遺伝や性格のせいではなく、習慣によるものです。浅い内容でも、深い内容でも、さまざまに対話をチャレンジしましょう。

■震災後は最後まで最善を尽くす

今の私が、震災支援活動や、さまざまな支援活動をしていて行き着いた「ツーステップ」です。第一ステップ「和顔愛語(わがなあいご)で始めよう、第二ステップ「居場所と所属をつくらう」。日々の生活を和やかな表情と慈しみのある言葉で始めること。そして、自分の居場所を家庭以外にいくつか持つこと、そして、所属を持って、そこでの活動や役割を担うこと。こんな単純明快なことの積み重ねの中で、闇夜の中でも、うつすらと光の方向が見えてくるように思います。それこそが、自分の光の道です。

最後に、親友から最近もらったお気に入りの言葉で締めくくります。

荒波がいくつも重なってくるときには一つひとつの波をさけようとしても結局次の波をかぶって流され、どこにいるのか分からなくなってしまうやすすいので自分の目的地をきちんと定めて、それを北極星のように見ているようにするのが一番ではないかと考えています。(森実)



本の紹介

『キリスト者として
原発をどう考えるか』
(いのちのことば社)

内藤新吾／著
いのちのことば社／発行
700円+税

教会で原発のことを話題にしにくい
のだけれどどうしたらいいだろう？
YWCAに連なる人の中にはこんな思い
を持つ方も多いのではないだろうか。こ
の問いにスッと答えてくれるこの本は、
YWCAの学習会にぴったり。教会に連な
る人たちにも、そうでない人たちにもぜ
ひ読んでいただきたい手軽な一冊であ
る。今を生きるすべての人に、生きるこ
との意味と責任を考える機会を与えてく
れると思う。

我が敬愛する内藤新吾牧師は、いの
ちのことば社からこの本を書いてほし
いと依頼があったこと、忙しいので充分
時間をかけて書けなかったことを話し
ておられた。内藤牧師は昨年浜岡原発の
地元から千葉県に転居され、今や首都圏
でヒッパリダコとなっている。でも本
の内容は充実しており、とてもわかりやす
い。それは、本を書くために考えたこ
とではなく、生き方・信念そのものだから
に違いない。

最後に、何度読んでも涙が溢れる、文
中に引用されている言葉を紹介する。
「神はこの世では全能ではないが、私
たちを愛しており善である」。これは聖書の
言葉ではないが、今回のようなあまりに
も大きな災害や苦悩についての、内藤牧
師が「心の内の確信」としているユダヤ
教のラビの言葉である。これからも、いつ
もこの本を手にしてほしい。

静岡YWCA 藤原玲子

ひろしまを考える旅2012ご案内

グローバルヒバクシャ ひろしまで考える被爆と被曝

2012年8月7日(火)～9日(木)

3・11の“あの日”から一年以上が過ぎても原発事故は収束せず、私たちは言わば「被
ばく社会」に生きています。67年前の広島・長崎の“あの日”と地球上で起き続けて
いるヒバクについて学ぶことは、私たちがこれから生きていく上で大切なことだ
と思います。核は人間にとってどのような存在なのかを広島で共に考えてみましょう。
ぜひご参加ください。

*グローバルヒバクシャとは：『ヒバクシャ』をいわゆる『ヒロシマ・ナガサキ』の原爆犠牲者に限定
するのではなく、より広い視点からの核被害者を表しています。

■期間：2012年8月7日(火)～9日(木) 12:00

*オプション参加の場合、8月10日(金) 9:00解散

■会場：広島市文化交流会館

〒730-0812 広島県広島市中区加古町3-3 Tel 082-243-8881

■スケジュール

8月7日(火)	12:30/現地集合 → 開会 → 広島平和記念資料館見学 → 交流会
8月8日(水)	フィールドワーク 被爆証言/碑めぐり → 分かち合い → ワークショップI
8月9日(木)	ワークショップII → 思いを伝える → 閉会 → 12:00/現地解散 オプション 宮島を楽しむ/岩国を訪ねる
8月10日(金)	9:00/チェックアウト・解散

■対象：中学生以上、このプログラムに関心のある方どなたでも。

■費用：

● 中学・高校生	2泊3日 22,000円 (申込金5000円、参加費17,000円)
オプション参加	3泊4日 30,000円 (申込金5000円、参加費25,000円)
● 大学生・大学院生	2泊3日 23,500円 (申込金5000円、参加費18,500円)
オプション参加	3泊4日 33,500円 (申込金5000円、参加費28,500円)
● 一般	2泊3日 26,500円 (申込金5000円、参加費21,500円)
オプション参加	3泊4日 37,000円 (申込金5000円、参加費32,000円)

注1)費用には、プログラム費・宿泊費・食費・フィールドワーク交通費・保険料が含まれます。

注2)留学生参加費補助制度があります。詳細は日本YWCAまでお問い合わせ下さい。

■定員：85名(定員になり次第締切)

■申し込み方法：

(1)申込書をFAX・郵送またはメールで日本YWCAまでお送りください。費用は全額一括で、郵便
振替でお振込ください。郵便振替番号:00170-7-23723 (財)日本YWCA
※振込通信欄に「ひろしまを考える旅」と記入してください。

(2)申し込み締め切り：6月29日(金)

(3)キャンセルについて：8月1日(水)以前のキャンセルの場合は参加費のみ返却いたします。
8月2日(木)以後のキャンセルの場合は全額返却できません。

■インターン&ボランティアリーダー募集中：

*ボランティアリーダー

参加費：10,000円を補助いたします。資格：30歳以下の方。

内容：中学生・高校生参加者のサポートやプログラム運営をお手伝いして下さるリーダー

*インターン

募集人数：1名 締切：6月11日(月)…複数の応募があった場合は選考いたします。

詳細は日本YWCAホームページをご覧ください。www.ywca.or.jp/

■お問い合わせ・申込書送付先：

日本YWCA(担当：萩尾・小笠原) 101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11東京YWCA会館302号室
tel: 03-3292-6121 fax: 03-3292-6122 e-mail: office-japan@ywca.or.jp

静岡
YWCA

親子わくわくピクニック

福島県飯館村の幼稚園児とその保護者計28名を招いて、3月末に2泊3日の「親子わくわくピクニック」を行いました。市内8団体が実行委員会を構成し「虹と緑しずおかフォーラム」と静岡YWCAが代表となつて、2カ月の準備を経て実施しました。

放射線の恐れを忘れて自然の中でのびのびと過ごしてもらおうという企画は目的を十分に果たすことが出来ました。初日は雨でしたが、子どもたちは多彩な若者のパフォーマンスに目を輝かせて見入り、とんだり跳ねたり、ゲームや買い物をしたりとよく遊びました。

2日目は晴天の下、日本平の山中に開かれた施設でスタッフが園児一人ひとりに対応できるプログラムを用意し、駆け回り、笑い、叫び、自然の中の生き物に驚き、よく食べ、疲れを知らぬ子どもたちの生き生きとした姿が見られました。日本平山頂で駿河湾を、三保の松原で霊峰富士を眺め、久能の石垣いちごの食べ放題と、静岡を堪能してもらいました。

3日目は科学館で色々な不思議に心を奪



楽しかった人バンザイ

われて時間を忘れて楽しめました。さまざまな人が関わることにより豊かな発想が生まれ、幅広い方面からの物資金銭の援助が与えられ、単独の実施ではとうてい成し得なかったプログラムであったことを実感しています。

事後の参加者へのアンケートでは多くの感謝の言葉が寄せられました。今夏も実施の予定です。

静岡YWCA会長 黒沼由利子

神戸
YWCAひよんべい
ちよひよのぞつてみよんツアー

神戸YWCAは3月24日～29日に表記ツアーを実施し、福島県から7家族が参加した。

昨年夏に福島の子どものための保養キャンプを終えた後、何かもつと将来につながる工夫ができないかと考え始めたのが、このツアーのきっかけだった。せつかく遠い兵庫まで来てもらうのなら、子どもたちが思い切り外遊びを乐しむ間、おとなには、住宅や仕事・学校・医療体制・地域柄などを見ていただく。そして、日々避難か否か、食べるか否か等、多くの選択を迫られるご家族に「わからない」「不安をひとつでも解消してもらおう」と企画が動き出した。

期間中は、福島の方々のために活動する団体や移住者と、参加者をつなげることに徹



借り上げ住宅見学

した。福島で生きることに悩むと、ツアーで出会った一人ひとりが相談者となるなら幸いだ。最終日、振津かつみ医師との医療相談を経て「自分の地域でも相談会を！」との動きも出てきた。このような方々を応援していきたい。

神戸YWCA職員 西本玲子



東日本大震災体験記

『新地町立尚英中学校』

2556の軌跡』発刊への協力



昨年末、日本YWCAが被災者支援活動を続けている福島県相馬郡新地町の町立尚英中学校が、全校生徒が書いた3月11日東日本大震災の作文を記録化したいとの意向をお持ちであること知り、日本YWCAは中学校に協力して、作文のデータ入力と津波被害を海外へも伝えていくために英語への翻訳ボランティアを行うことになりました。

地震・津波・原発事故で被災された方へ必要な支援は、その声をしっかり受け止めることから始まります。生徒たちの記憶に新しい昨年6月に、作文は書かれました。あの日の記憶を辿ることは、中学生の心に大きな負担となるため、個々にケアを受けながらも、ありのままを綴った貴重な作文です。

中学生からシニアまで60名以上の入力・翻訳ボランティアは、その声をしっかりと受け止めました。作文には、未来を創造する強い意志も記されています。同年代の中高YWCAのメンバーたちがこの入力作業に協力してくれたことで、作文を通して次世代を担う若者たちが繋がりました。若いカラが結ばれて、未来という路を切り開く大きなチカラとなることでしょう。尚英中学校の生徒たちの声は、ボランティアへ、そして記録化されたデータによって、世界の人々へ伝えられていきます。

日本YWCA職員 蕪木玲子

*体験記は、日本YWCA事務局や地域YWCAで読むことができます。

憲法審査会を傍聴しよう!

憲法審査会の動きが急ピッチです。注目し、近隣の方はぜひ傍聴してください。

*審査会日程はおよそ1週間前に確定します。両院とも毎週あるいは隔週で、平日開催です。

*傍聴を希望される方は日本YWCA事務局にご連絡ください。

◎参院は中継を、また両院とも意見を受け付けています。詳細は両院のホームページをご覧ください。

参議院憲法審査会
<http://www.kenpoushinsa.sangiin.go.jp/>

衆議院憲法審査会
http://www.shugiin.go.jp/index.nsf/html/index_kenpou.htm

ご協力ありがとうございます

■東日本大震災被災者支援募金

- 仁木三智子 高岩由美子 大澤千鶴子
- 富岡美知子 高野和佳子 玉木けい子
- 田村恵美子 伊藤真智子 黒田とゆ子
- 辻加代 白井陽子 水上伸子
- 斎藤喜子 辻井夏子 山路雅子
- 北原惠美 安武留美 永吉敬子
- 白田治子 寺島順子 杉山知子
- 木村純子 野島幸子 幸福花江
- 汐崎康子 川原和子 一杉静子
- 大村直子 西野和子 高木弘子
- 中村紀子 日浦華子 板垣貴子
- 和田妙子 西島 黎 松浦靖子
- Ms. Claude Ie Jeune
- Ms. Herzog
- サンタの会代表 海野登光
- 木版工房 大沢民子
- 捜真女学校中学校・高等学校
- 福岡女学院中学校・高等学校生徒一同
- 福岡女学院中学校・高等学校宗教部
- 大阪女学院中学校高等学校宗教部
- 大阪女学院中学校高等学校東日本大震災被災者支援の会
- 大阪女学院中学校高等学校宗教行事講演会献金 東洋英和女学院同窓会
- 女子学院同窓会 国立呉高等専門学校北星学園女子高等学校YWCA
- 銚路YWCA 弘前YWCA
- 湘南YWCA 静岡YWCA
- 浜松YWCA 神戸YWCA
- 松山YWCA 長崎YWCA
- 呉YWCA ドイツYWCA
- 東京YWCA会員グループ合同クリスマス
- 東京YWCAメンバー一同
- 東京YWCA国領オータムフェア実行委員会 東京YWCA募金箱
- 大阪YWCAクリスマス講演会募金箱
- 大阪YWCAクリスマスバザー実行委員会
- 神戸YWCAファンドレイジング部フルート&ピアノコンサート
- YWCAフェスタin長崎日曜礼拝席上献金
- 南阿蘇えほんのくに
- 助成金・協力金
- ドイツプロテスタント教会社会奉仕協会災害ボランティア活動支援プロジェクト会議

■賛助費

- 小川郁子 川端国世 大城美代子
- 中尾廣美 古川道子 谷澤トモ子
- 本田恭子 淀川敬子 武内富貴代
- 高月三世子

■活動支援サポーター

- 萩原奈苗 糸井玲子 松原恵美子
- 坂本 渚 奥田尚子 木村真理子
- 金剛静恵 大野綾子 杉村みどり
- 寺島順子 保野尚子 横山由美子
- 樋口さやか メルキエテックの会
- 東洋英和女学院中高部宗教委員会
- 捜真女学校中学校・高等学校
- 山梨英和中学校・高等学校
- 広島YWCA 甲府YWCA
- 浜松YWCA

■多文化共生サポーター(国際協力募金)

- 松山YWCA
- (国際協力募金 変革の力基金)
- 甲府YWCA
- (パレスチナYWCA支援募金)
- 名古屋YWCA
- (オリーブの木キャンペーン募金)
- 小川富貴 宮下まり 矢内寿美子
- 松澤啓子 呉YWCA
- 0422キリスト教会
- 合同プログラム実行委員会

■若い女性育成サポーター

- 藤原玲子 藤野尚子 吉村千恵
- 西原美香子
- 東京YWCA世界YWCAデー参加者有志
- 平和教育資金 名古屋YWCA
- 指導者養成基金 松原恵美子
- クリスマス献金

■ピースメーカーズファン

- 女子聖学院中学校・高等学校
- 女性が創る安全な社会のための寄付(武内富貴代)

(2012年4月20日現在 敬称略)

2011年3月15日からの
募金総額 4681万119円

発行所 財団法人日本YWCA
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03・3264・0661
office-japan@ywca.or.jp

【駿河台オフィス】
〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11
東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121/FAX 03・3292・6122

編集発行人 鈴木伸子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料 1,260円(送料込)